

頑張れ!

川高のスーパーイクス・ハイスクール

榎原 久典 (高二十三回)

名古屋大学大学院理学研究科 名古屋大学高専研究院

川高の理科担当の山崎先生から、母校が文科省のスーパーサイエンス・ハイスクール(以下、SSHと略)に採択された、との知らせをいただいたのは昨年の3月であった。山崎先生とは、平成16年に城西大学大学院理学研究科の創設記念講演会で私が講演をしたときに、川高の理科クラブの生徒さんを迎えてきていただいたのが縁であった。私は母校がSSHに採択されるかを、ここ2、3年、今か今かと心待ちにしていたから山崎先生からの知らせは非常に嬉しかった。SSHの獲得のために、(3月で)定年退職された当時の)菊池建太校長先生のリーダーシップと平野正美教頭先生やSSH推進委員長の阿部宏先生はじめ、川高の教職員の方々のご努力に、心より敬意を表します。

その後、阿部先生からSSHでの特別講演会の講師の依頼をうけたので私は二つ返事で喜んでお引き受けした。お引き受けした理由は私はすでに愛知県、大阪府、広島県のいくつかのSSH指定高校で生徒諸君に私の研究分野の話を中心に講演をしていて各地の高校生諸君とダイスカッションをした経験があったこと以上に、母校のSSHプログラムに少しでもお役に立てればと思つたからである。ご存知の方も多いと思うが、SSHとは文科省が平成14年度から行つている、数学も含めた科学技術の教育を重点的に行う高校を指定する制度のことである。まあ、

極言すれば、将来ノーベル賞を受賞できるような想像力豊かな若い人材を高校時代からモチベーションを上げ、育成する制度で、政府の構造改革特別要求の一環から生まれた。一つのSSHプログラムは平均3年間のプログラムであり、SSHも大学のCOEもしくは経済チベリションの高い研究者のたまごであるいは若い研究者を育成する国家規模のプロジェクトである。

昨年6月にSSHの講演で川高を訪れたとき、菊池校長先生はSSHの申請に伴うさまざまな苦労を私にそつと話して下さつた。私には菊池校長のご苦労が良く理解できた。なぜなら、私も大学でCOEを申請・獲得するのにどれほど書類作成やその他のことで時間を使い、大変なことを身にしみていふからである。SSHを遂行するのは、教職員の方々には大きな負担がかかるであろう。また、SSHには批判もある。エリト養成校ではないか、公教育の差別化ではないか、ゆとり教育などである。しかし確実なことは、生徒は最先端のサイエンスやテクノロジーに触れ、自然を深く考え科

学するモチベーションが格段に向上すると言つたことである。

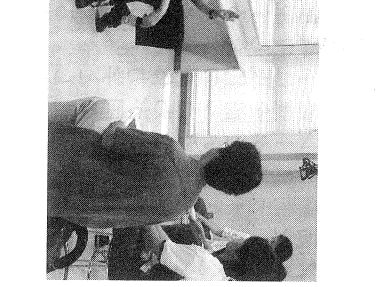
久しぶりに訪れた、川高の雰囲気が昔のままだった。玄関のくすの木はもちろんのこと、校舎に流れている空気は、常に時代の先端を走つてきた川高の空気だ。校長室の前では、私が在学した70年代初めの学生運動の華やかし頃は

「この校長室の前でハンストをしてた学生がいたなあ…」などと感慨に耽つてしまつた。校長室で校長エンストとナノテクノロジを牽引するトッププランナーである。講演の後は、会場の生徒さんから多くの質問が切れとなり、全部の質問を受けることはできなかった。質問内容は「流石、川高生!」と盛大だった。

「食後、講演会場の郭町にある「やまぶき会館」に着いてしばらくすると、ぞくぞくと川高の1年生が、ほぼ全員集合し始めていた。午後5時の授業を終えて、みんな三々五々会場に集まつてきている。中には野球部の生徒諸君がユニフォーム姿で駆けつけている(ちなみにも野球部員だったので、かれらは、私の直接の後輩でもある)私の講演を聴いたら、すぐにグラウンドに戻つて練習するのだらう。(頼もしげ)現にこの年の夏の埼玉県甲子園予選では5回戦まで勝ち進み、ベスト16に入った)また、体育の船橋博俊先生(野球部の1年後輩で、埼玉県高等学校野球

球連盟の理事の要職にもある)に於いては会場担当として生徒の誘導その他で、いろいろな会場内を駆け回つていただいた。船橋君には夜の宴会の部も企画担当していただいた。ありがと!

私は「星間分子からナノサイエンスへ―21世紀を拓くナノテクノロジー―」と題して2時間の講演を行った。私がおこ20年近く精魂を注ぎこんで研究続けている、フラレンとカーボソナノチューブとよばれる新しい炭素のナノ物質の発見の物語と最近の研究の進展を解説した。電気・電子デバイス、機能材料、バイオなどへの応用が急速に進んでいるこれらのナノ



用が急速に進んでいるこれらのナノテクノロジは21世紀のナノサイエンスとナノテクノロジを牽引するトッププランナーである。講演の後は、会場の生徒さんから多くの質問があつたが、残念ながら時間が切れとなり、全部の質問を受けることはできなかった。質問内容が切れるような高度な内容の質問が受けるような高度な内容の質問があつたのは驚いた。その後、会場の控え室に戻つても数名の生徒さんの質問攻めにあつた。いまさらながら、川高生のモチベーションの高さは、素晴らしい!

今年5月に川高の生徒諸君へ、私にとつて第2回目的SSHの講演をすることになった。まあ、今年は後輩諸君にどんな話しをしようかな。思案中です。

頑張れ!川高のスーパーサイエンス・ハイスクール。